



麻布幼稚園だより 12月号

平成26年11月29日 港区立麻布幼稚園

園長 大島美知代

挨拶の効果

園長 大島 美知代

11月13日(木)に第2回評議員会を行いました。評議員会には、地域の代表(麻布小学校同窓会長 清水さん)や前園長先生(菅野校長先生)、PTAの代表(平成24年度~26年度会長)、そして学識経験者として元園長先生(中央区立・港区立幼稚園元園長先生)に参加していただいています。

評議員会では、園から教育のねらいや幼児の活動の様子、今年度の教育活動の工夫や成果をお話します。評議員の皆様は保育を参観したり、話を聞いたりして、本園の教育活動へのご意見や評価を出してください。私たちはご意見を伺い、よりよい指導につなげていきます。

11月の評議員会の内容をお話します。

「幼稚園ではいろいろな原物体験を大事にしているのですね。幼児が幼稚園で虫や植物に出会ったり、植物を植えて収穫して食べるまでの過程を体験するのは大切なことだと思う。」という意見ができました。幼児は文字を読んで知識として理解するというより、実際に原物に出会い、五感で感じ、体や心で感じたことを蓄えていくのです。このことが小学校での勉強につながっていきます。幼稚園のさまざまな教育活動を通して、物や人との関わりを充実していくことが、小学校の学びの基礎となっていくと考えています。

12月に行う『もちつき』はまさに幼児にとっては原物体験そのものです。保護者の方にとってもそう言えるのかもしれませんが。

評議員会で今年度の新しい取り組みとして毎朝、年長組と交わす挨拶のことを話しました。昨年度までの「お・は・よ！」という挨拶だけをしていたのですが、今年度になって年長組とは特に、小学生が校門で挨拶するのと同じように、相手と目を見合わせ、頭を下げる「おはようございます」の挨拶をしていることを紹介したのです。

このことで評議員の方から次のようなお話をいただきました。

「わが子の挨拶をよくするには、親同士が家庭で挨拶をするのがよいと思い、夫婦で挨拶を始めた。そうしたら知らず知らずのうちに子どもが挨拶をするようになった。」とおっしゃいました。そして「夫婦の間でもただ「おはよう！」の短い言葉を交わすだけで、相手の体調や機嫌や思っていることが分かるようになった。」ともお話してくれました。その通りだと私も思いました。門で園児と挨拶を交わすだけですが、今日の気持ちや体調が判るような気がします。そして園児だけでなく、保護者とも目と目を合わせ、挨拶できるのは嬉しいです。

これから朝はますます空気が冷たくなってきそうです。少し遅刻も増えてきました。頑張っ
て遅れないで登園し、元気に朝の挨拶をしましょう。子どもは親のことをよく見ています。保護者も寒さに負けず、元気に挨拶をしてください。園児には現在、ポケットに手を入れて背中を丸めて登園する姿は見られません。

ご家庭でも「朝1番の挨拶」を心がけてみてはいかがでしょうか。